2013年10月期 決算説明資料

2013年12月12日（木）
株式会社オハラ（証券コード：5218）

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

目　次

株式会社 オハラ

◆ 2013年10月期 決算の概況　P03～11

◆ 2014年10月期 業績見通し　P12～23

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

2013年10月期 決算の概況

業績のポイント

株式会社 オハラ

<事業環境>

- デジカメ市場は、コンパクト縮小、レンズ交換式も海外中心に減速
- レアアース原料の市場価格は、下げ止まり
- HDD市場は、ノートパソコンの需要減少により、低水準で推移
- 露光装置市場は、半導体向け回復傾向、液晶向けも堅調

<当社業績>

- 光学ガラスは、年間を通じてデジカメ市場が伸び悩み、
  カメラメーカーの在庫調整が続いたことから、販売減少
- 特殊ガラスは、宇宙用途向け好調
- HD用ガラス基板材は、事業撤退を決定

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

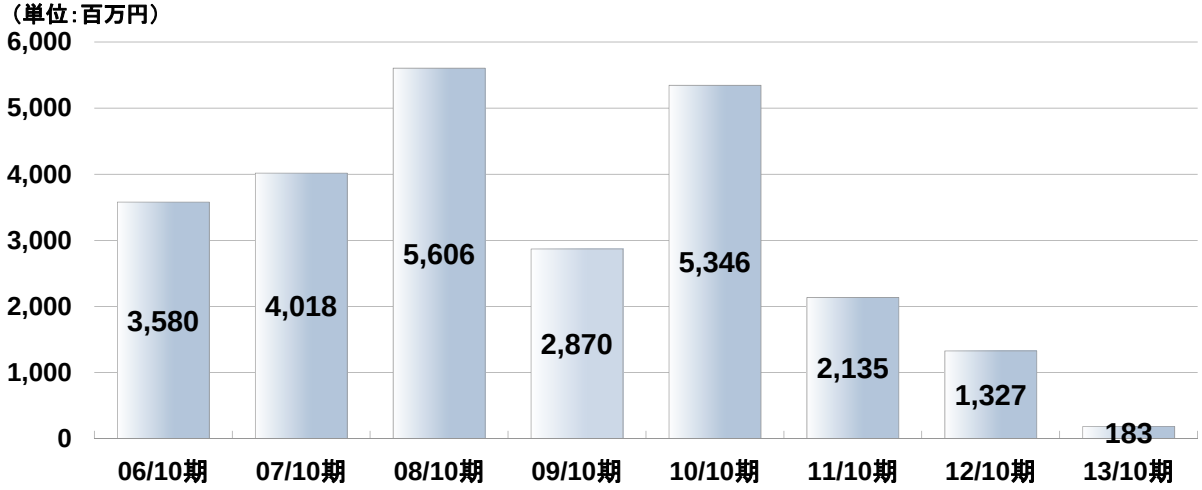
HD用ガラス基板事業撤退①

株式会社 オハラ

<事業の概況>

- 当社のHD用ガラス基板材は1994年に製品化、1996年設立のマレーシア生産子会社にて製造
- 強度に優れることから、主に2.5インチHDDに使用され、ノートパソコンや携帯音楽プレーヤーの普及とともに需要拡大
- 近年は、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及に伴い、2.5インチHDD市場が停滞、当社製品の需要も縮小

<HD用ガラス基板材の売上推移>



Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

HD用ガラス基板事業撤退②

株式会社 オハラ

<撤退の背景>

- 2.5インチHDD市場の縮小により、当社製品の需要は低迷、再度の需要増加は、次世代記録方式の採用以降になると想定
- 3Q末の減損損失計上時点では、月産能力は縮小するものの、新製品投入による一定シェア確保により、事業は継続できると判断
- しかしながら、その後、既存サプライチェーンが寸断、新たな販路確保に努めるも、再構築には時間を要することから、事業撤退決定、減損損失追加計上

<特別損失計上額>

（単位：百万円）

計上時期	計上額
3Q末（前回）	2,063
期末（今回）	2,026
合計	4,089

<今後の予定>

日程	
取締役会決議日	2013年12月12日
生産終了	2014年1月
販売終了	2014年2月

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

業績サマリー

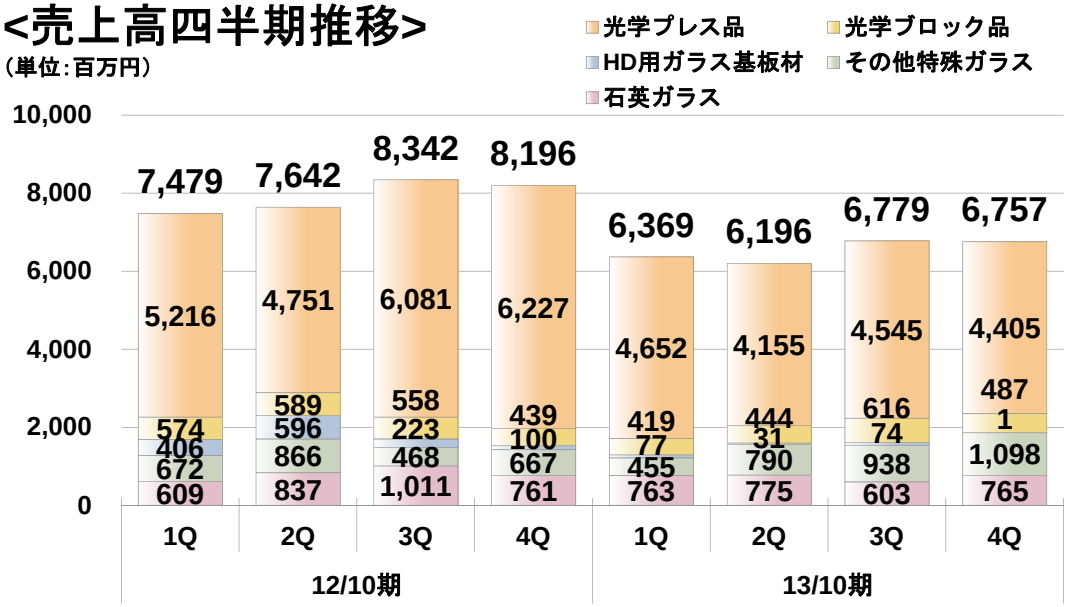
株式会社 オハラ

（単位：百万円、％）

	12/10期	13/10期	増減
売上高	31,661	26,103	△5,558
			△17.6%
営業利益	1,072	△674	△1,747
[営業利益率]	3.4%	△2.6%	―
経常利益	1,518	765	△753
[経常利益率]	4.8%	2.9%	△49.6%
純利益	475	△4,005	△4,480
[純利益率]	1.5%	△15.3%	―
為替レート 円／1USD 円／1EUR	 79.07 102.17	 94.40 124.42	期中平均

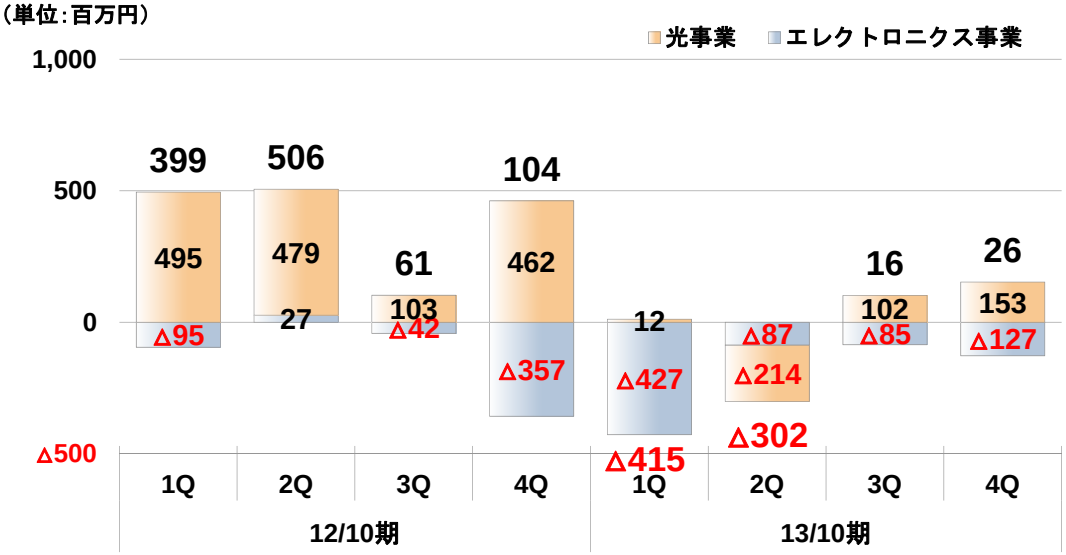
<売上高四半期推移>

（単位：百万円）



<営業利益四半期推移>

（単位：百万円）

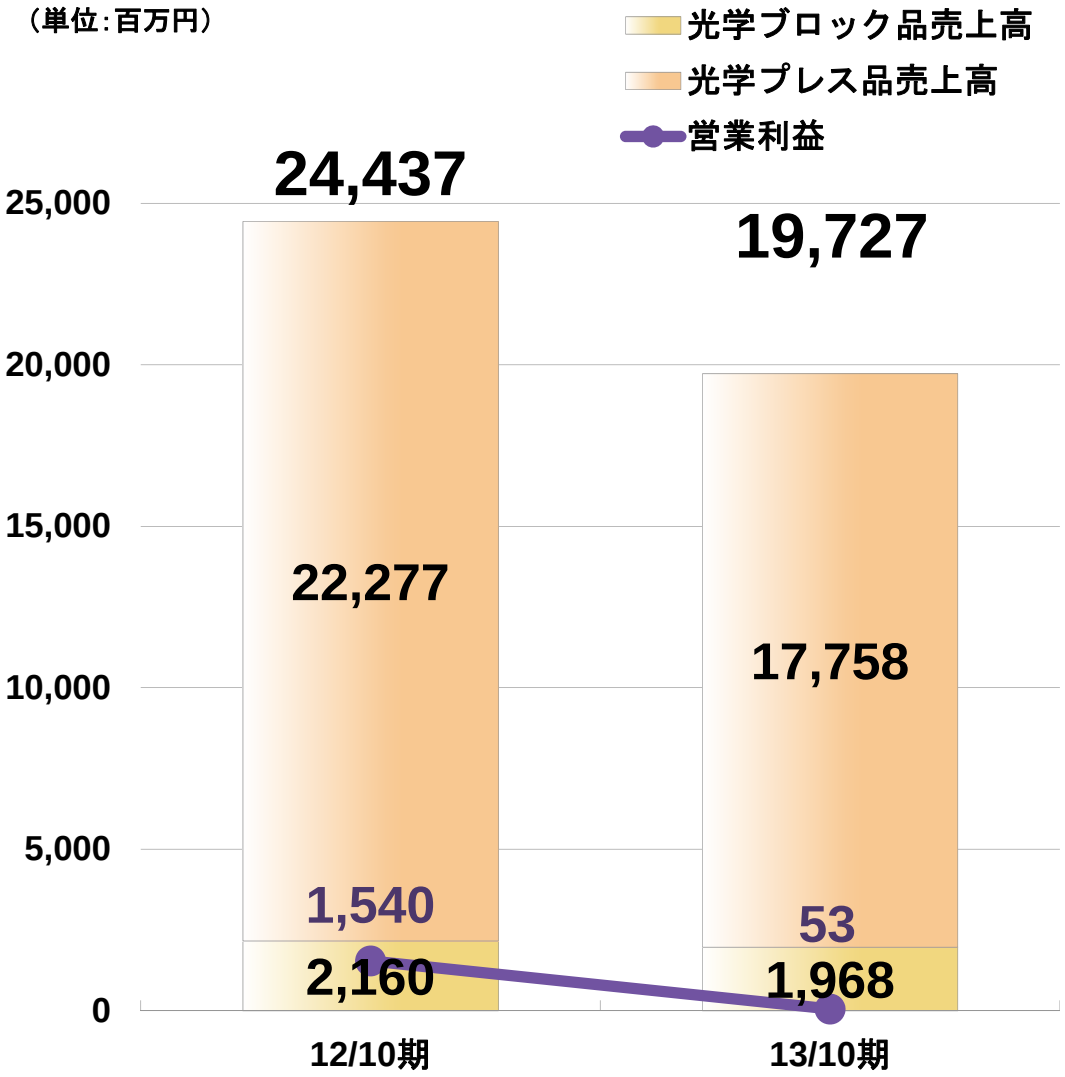


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

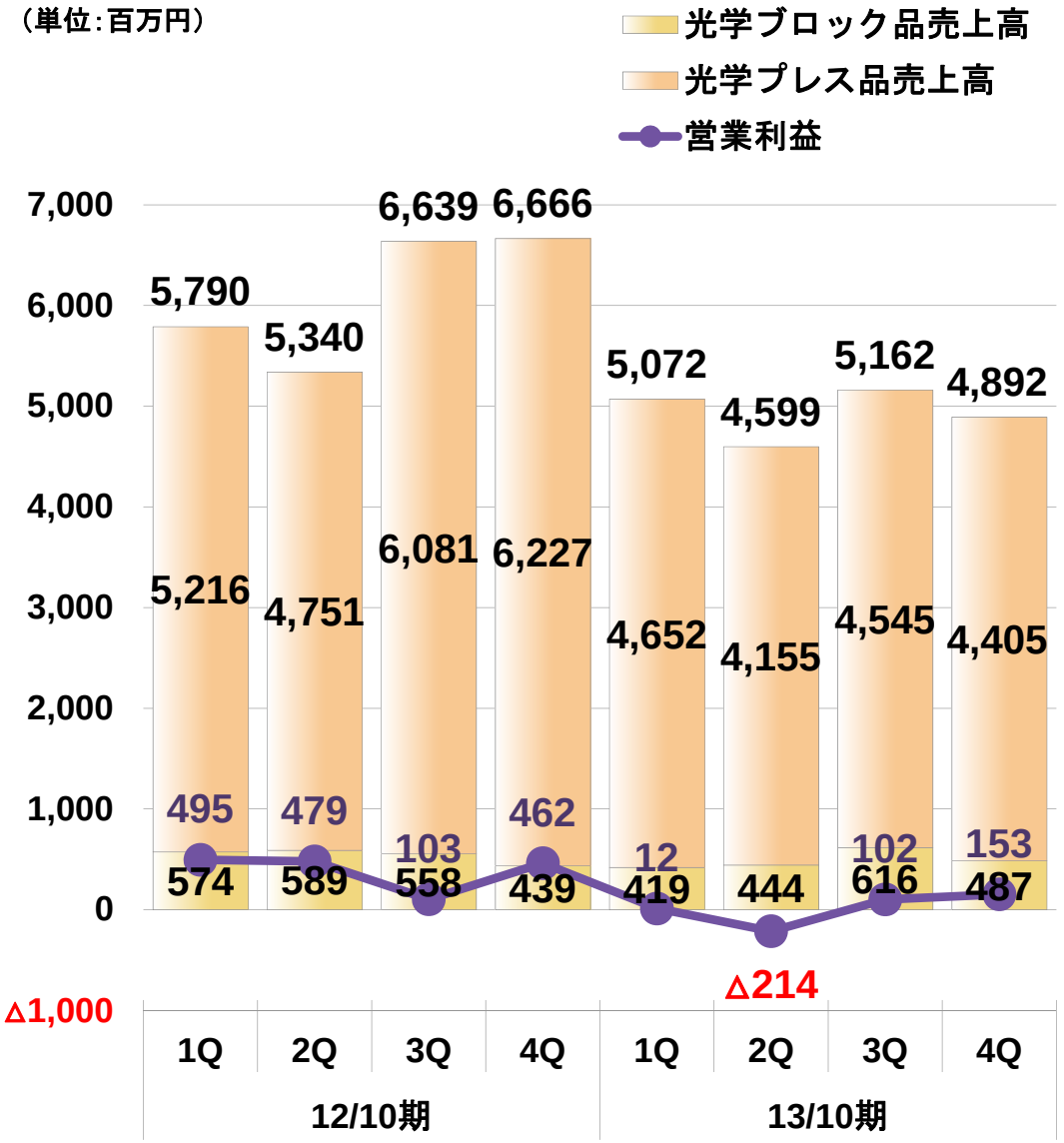
光事業

株式会社 オハラ

<通期対比>



<四半期推移>

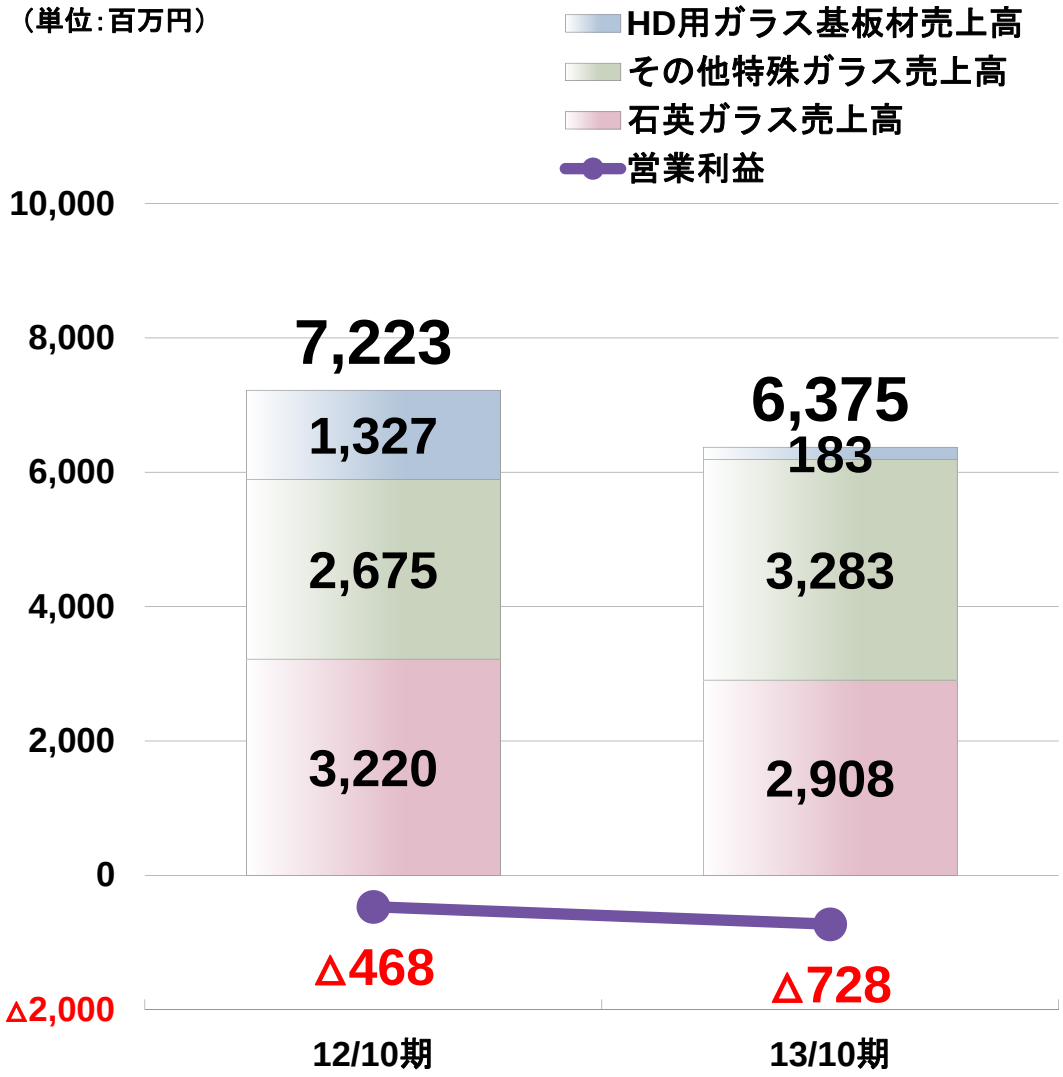


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

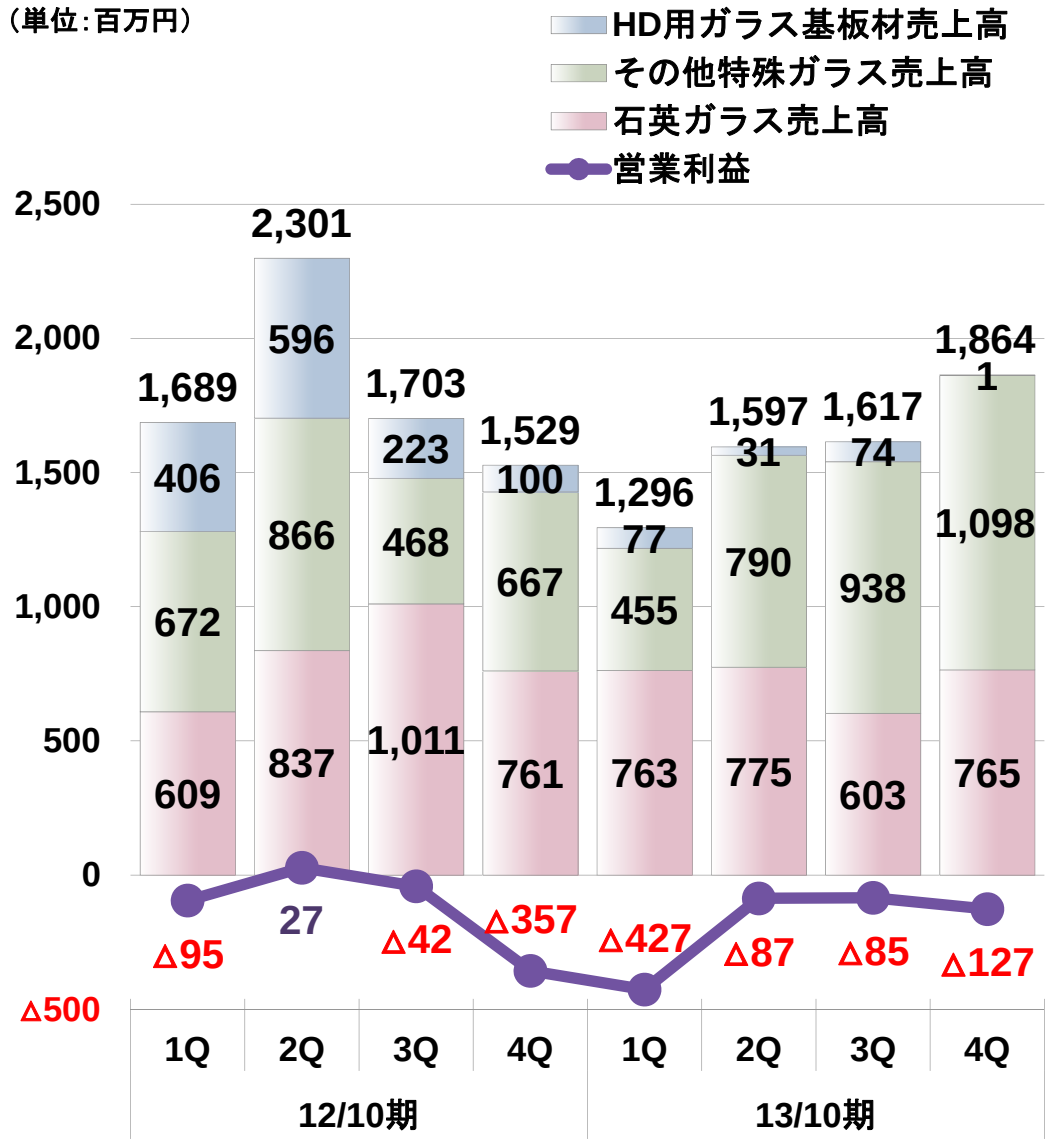
エレクトロニクス事業

株式会社 オハラ

<通期対比>



<四半期推移>

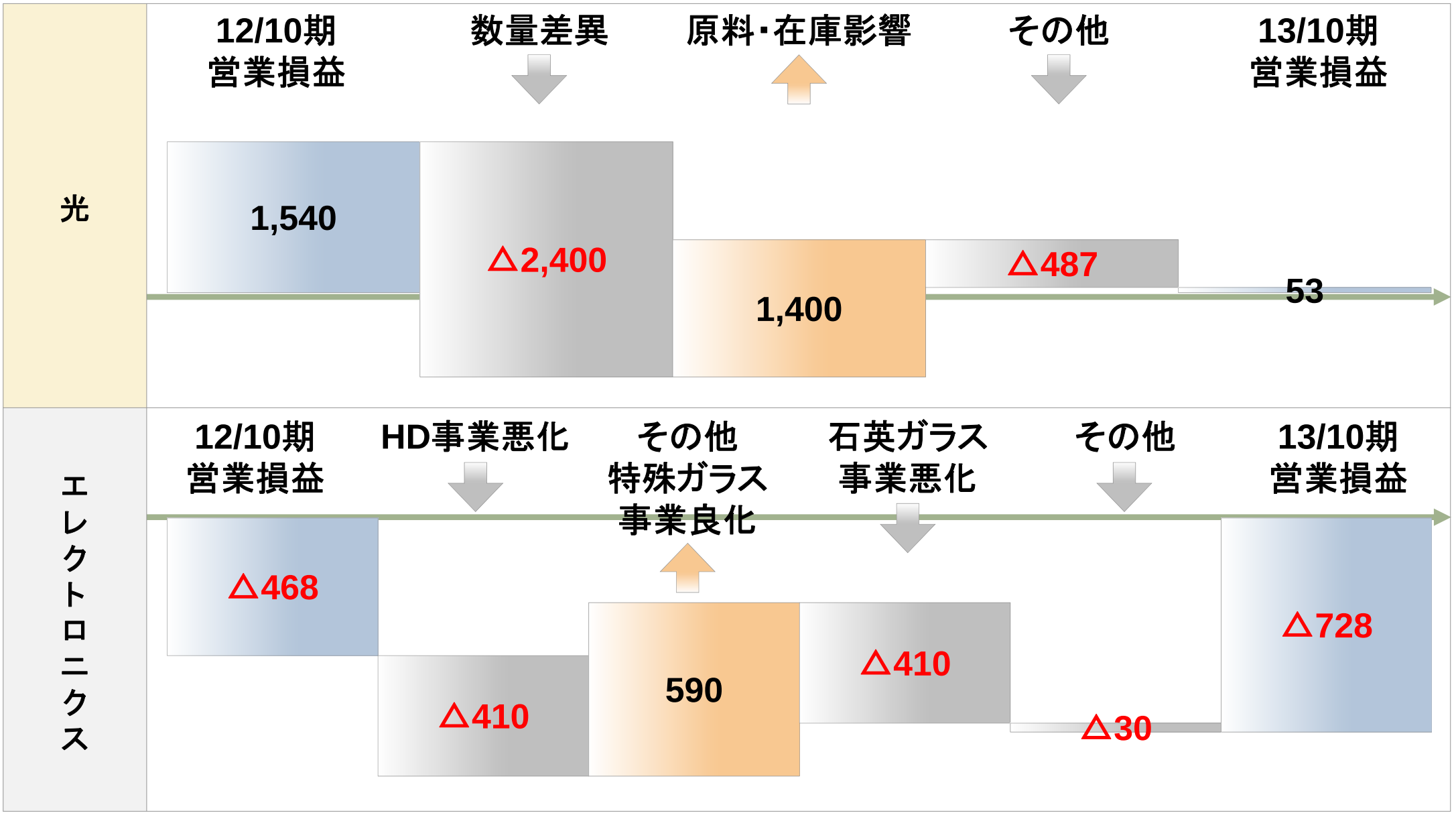


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

営業損益増減要因

株式会社 オハラ

（単位：百万円）

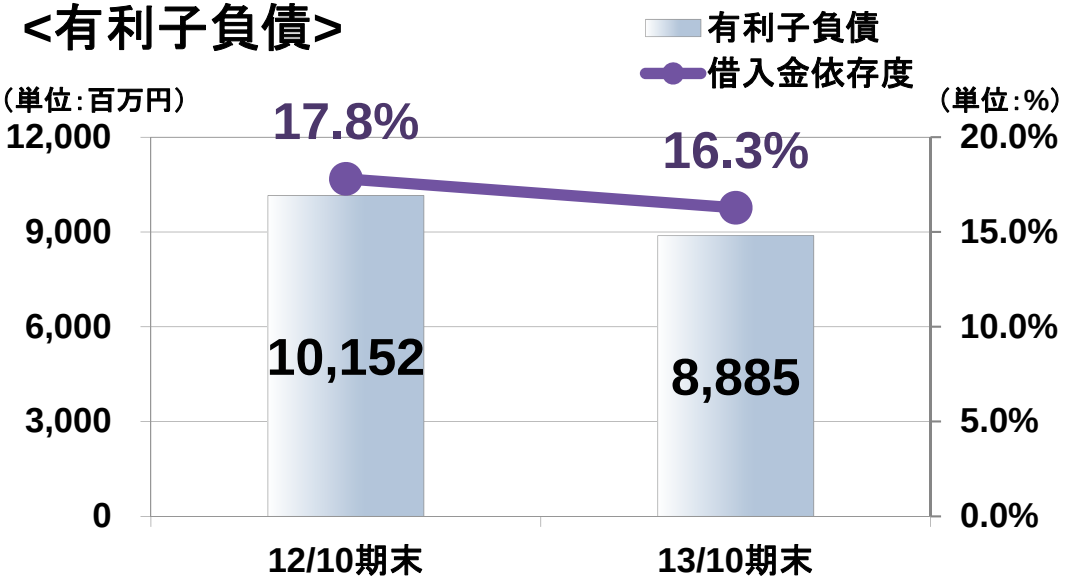


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

キャッシュ・フロー

株式会社 オハラ





(単位:百万円)

営業CF増減主要因	
税金等調整前純利益	△2,637
減価償却費	2,152
減損損失	3,658
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,204
仕入債務の増減額(△は増加)	△1,582
投資CF増減主要因	
固定資産の取得	△3,256
投資有価証券の売却	915
財務CF増減主要因	
借入金の返済	△1,311
配当金	△486

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

2014年10月期 業績見通し

事業部制の導入

株式会社 オハラ

<導入の狙い>

- 事業環境の変化に対応し、巻き返しを図るため、更なるスピードをもった施策の推進が必要
- 役割・権限・責任範囲を明確化、事業別採算管理を徹底し、原価低減を強化することで、早急に収益改善を図る

<事業部の概要>

セグメント	担当事業部	主要製品群
光事業	光製品事業部	光学プレス品 光学ブロック品
エレクトロニクス事業	特殊品事業部	特殊ガラス 石英ガラス

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

見通しサマリー

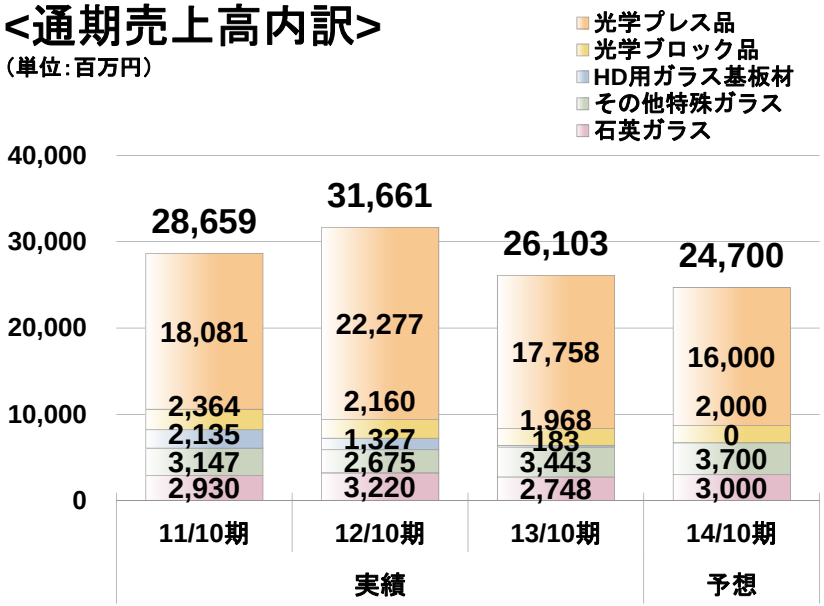
株式会社 オハラ

（単位：百万円、％）

	13/10期 通期実績	14/10期 通期予想	増減	14/10期 上期予想
売上高	26,103	24,700	△1,403	11,200
			△5.4%	
営業利益	△674	590	1,264	△200
[営業利益率]	△2.6%	2.4%	―	△1.8%
経常利益	765	820	54	300
[経常利益率]	2.9%	3.3%	7.2%	2.7%
純利益	△4,005	250	4,255	0
[純利益率]	△15.3%	1.0%	―	0.0%
為替レート	期中平均	期中平均		
円／1USD	94.40	98.00		
円／1EUR	124.42	130.00		

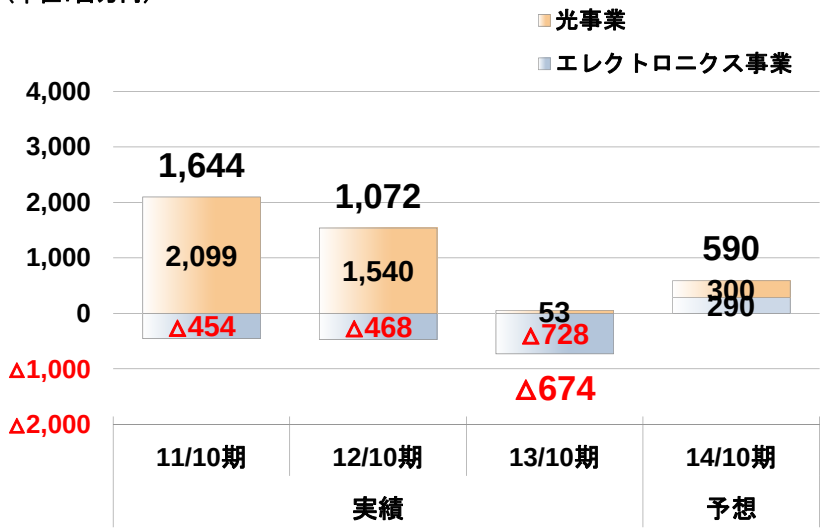
<通期売上高内訳>

（単位：百万円）



<通期営業利益内訳>

（単位：百万円）



Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業の基本戦略

株式会社 オハラ

★基本方針

「グローバル化と川下化による事業競争力強化」

<グローバルでの生産販売一貫体制強化>

日本、中国、台湾の3極による光学ガラス生産体制を確立、
原価低減及びリードタイムの短縮による製品競争力の向上を目指す

<非球面レンズ市場での拡販>

顧客の納品形態ニーズの変化に合わせ、非球面レンズ向けを中心に、
付加価値の高い製品ラインを拡大する

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

光事業見通しのポイント

株式会社 オハラ

<事業環境>

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は、
  世界経済の回復やメーカーの在庫調整の収束により、
  緩やかながら成長する見込み

- コンパクトデジタルカメラ市場は、需要の縮小が続く見込み

<当社状況>

- 売上は、当面需要の低迷が続き、上期までは厳しいものの、
  下期以降、レンズ交換式市場の成長に合わせ回復する見通し

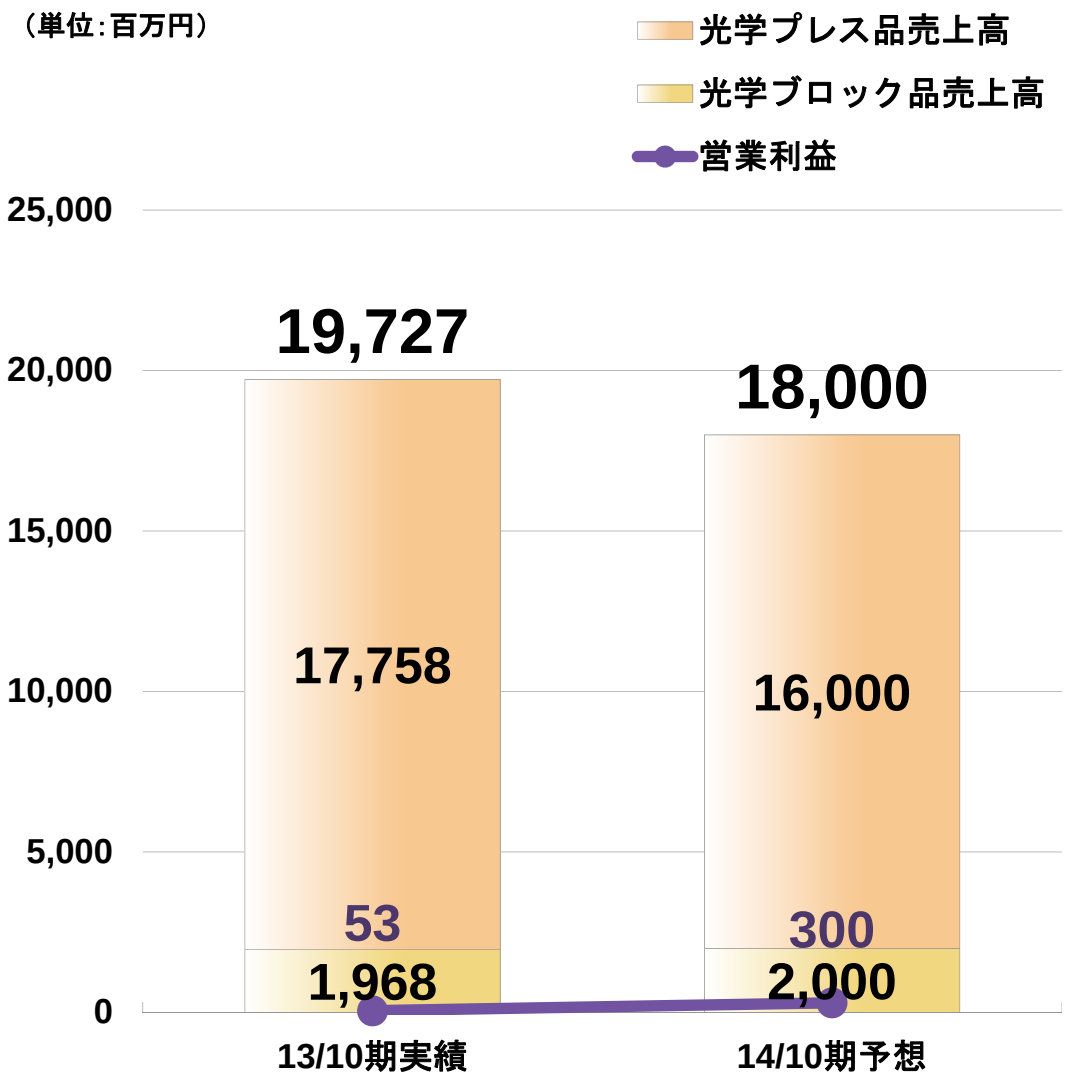
- 損益は、コンパクト市場の縮小や、上期の需要減に伴い、
  厳しい状況が続く見通し

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

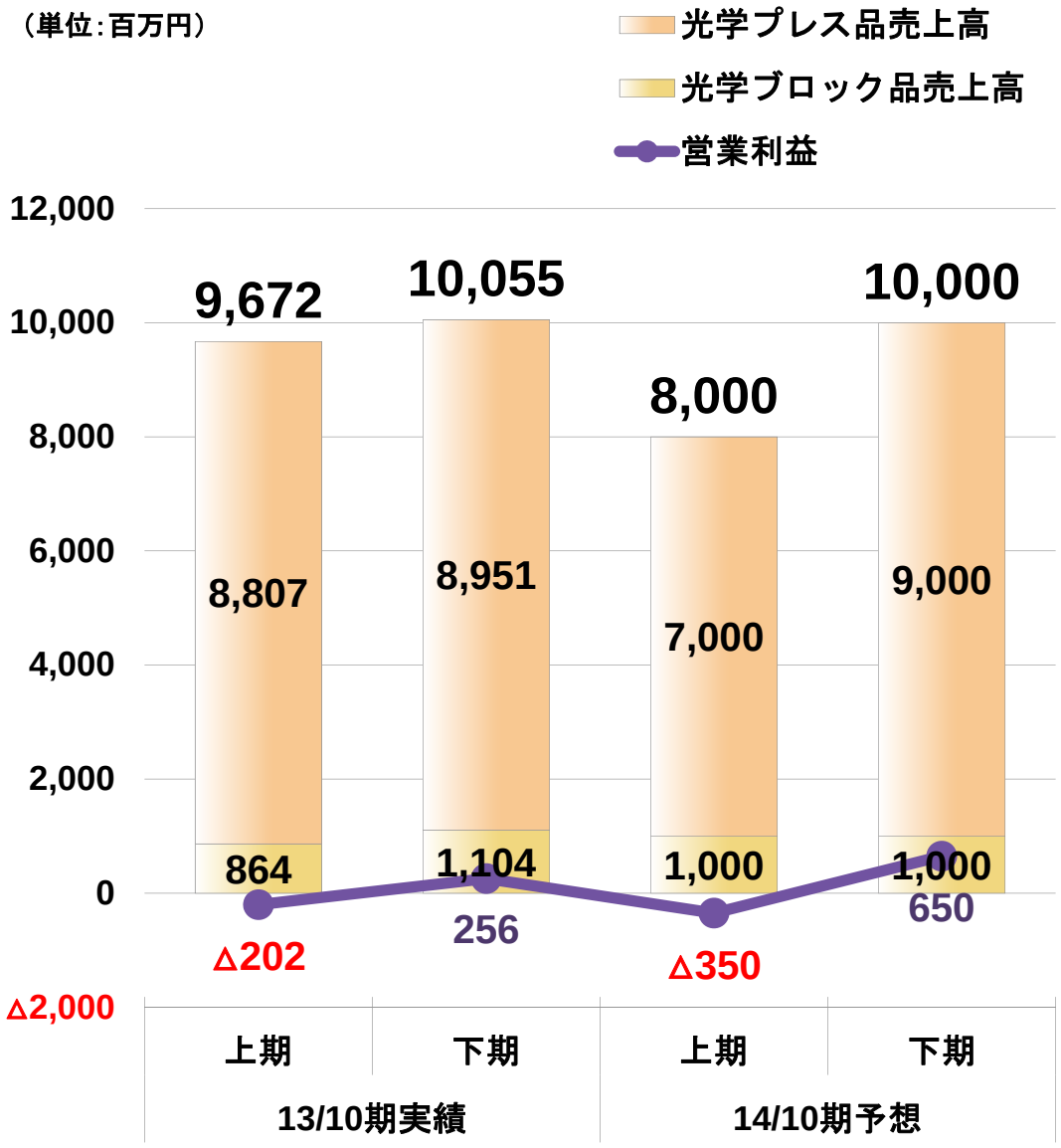
光事業見通し

株式会社 オハラ

<通期対比>



<半期対比>



Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

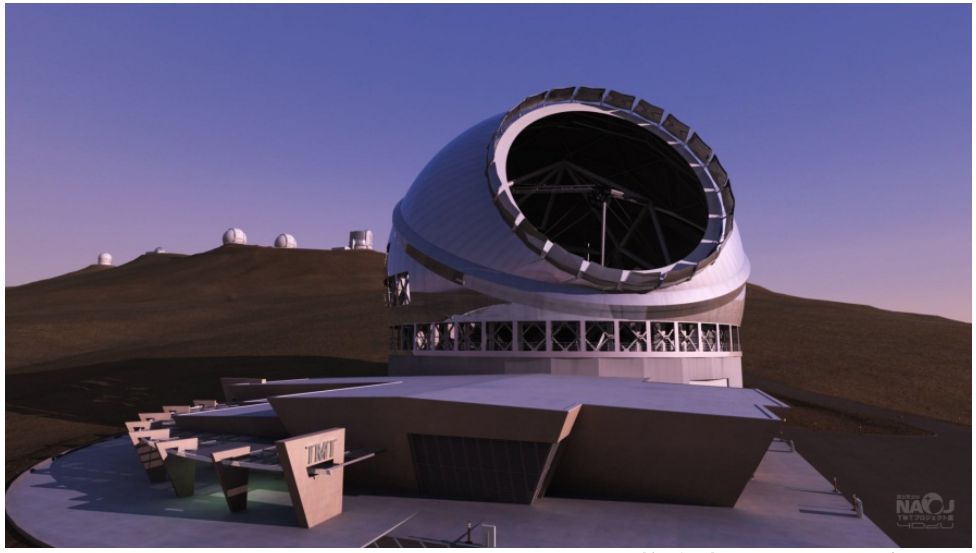
トピックス：宇宙・天文用途開拓

株式会社 オハラ

- 国立天文台などが推進する次世代超大型天体望遠鏡「Thirty Meter Telescope（TMT）」向け鏡材納入開始
- 今後は、TMT向け需要の確保に努めるとともに、他の国内外大型望遠鏡案件獲得にも注力

Thirty Meter Telescope（TMT）

（ハワイ、マウナケア山。2022年度観測開始予定）



国立天文台TMT推進室ホームページより

最初の分割鏡素材（当社極低膨張ガラスセラミックス）



国立天文台TMT推進室ホームページより

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業の基本戦略

株式会社 オハラ

★基本方針

「既存製品の強化と新規事業創出」

<既存製品の強化>

- 極低膨張ガラスセラミックスは、
  宇宙・天文向け需要増への対応のため、生産規模を拡大する
- 石英ガラスは、販路拡大及び工程改善による収益性向上を目指す

<新規事業創出>

- リチウムイオンバッテリーは、一次電池向け製品を拡販中、
  二次電池向け製品の実用化を進める
- 光学ガラスの組成開発技術をベースに新規用途開拓を進め、
  新事業の早期実現を目指す

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

エレクトロニクス事業見通しのポイント

株式会社 オハラ

<事業環境>

半導体露光装置市場は、

- スマートフォンやタブレット端末の成長を背景に、需要が拡大する見込み

- 液晶露光装置市場は、中小型を中心に拡大する見込み

<当社状況>

- 特殊ガラスは、宇宙、天文用途向けが好調に推移するほか、液晶露光装置向けも本格的に回復する見通し

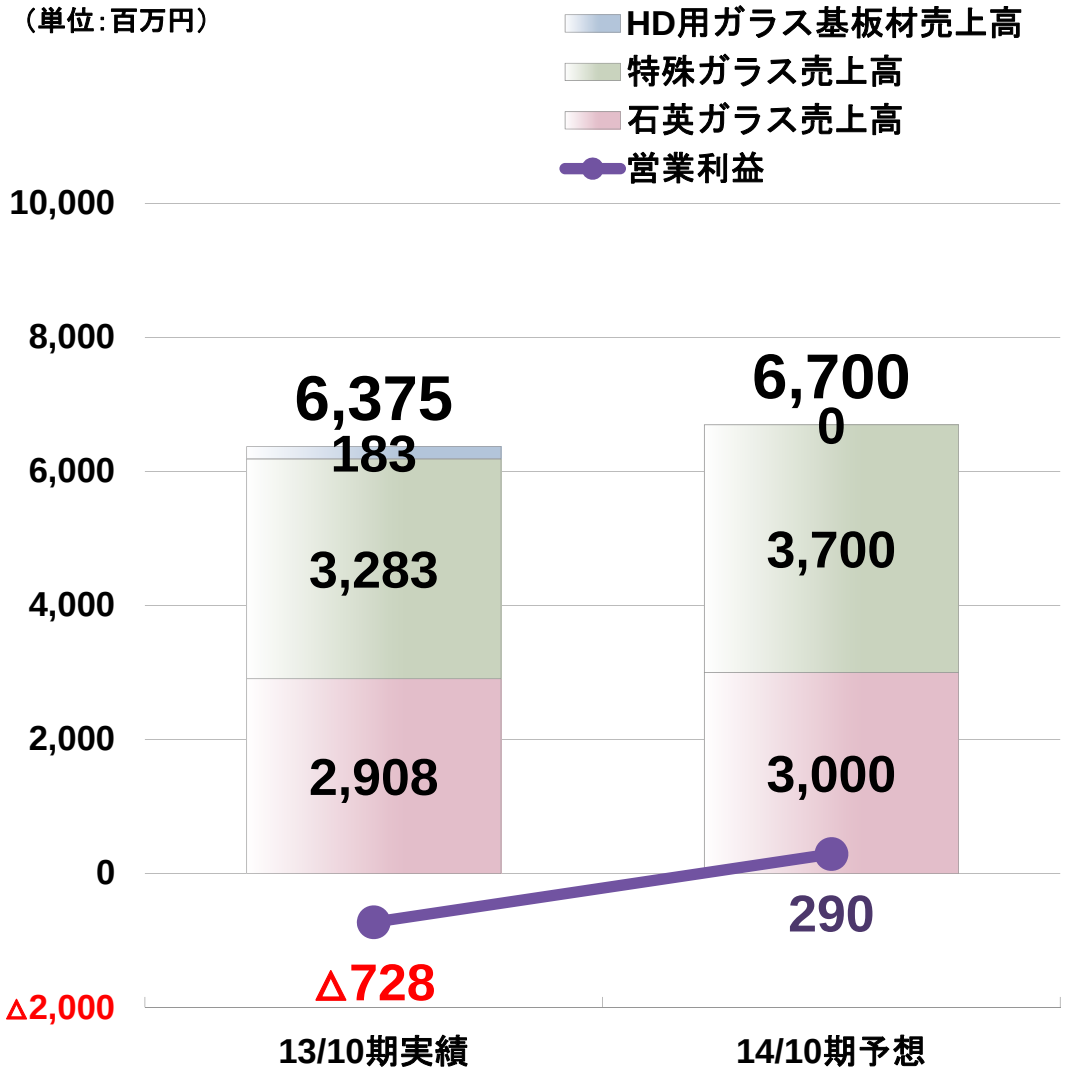
- 石英ガラスは、液晶フォトマスク向けは工程改善によるコスト削減で採算性を向上、海外販路拡大を見込む

Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

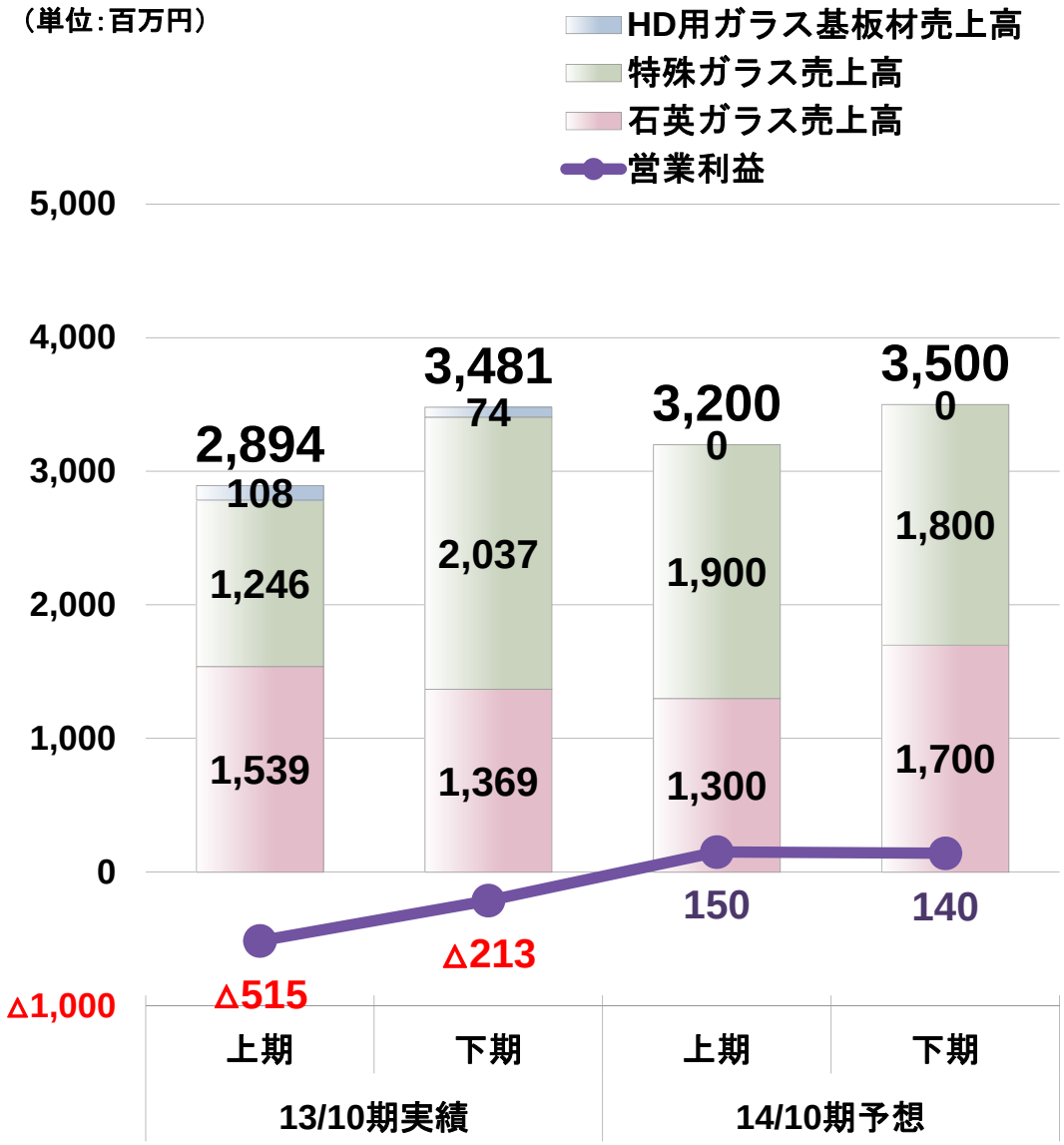
エレクトロニクス事業見通し

株式会社 オハラ

<通期対比>



<半期対比>

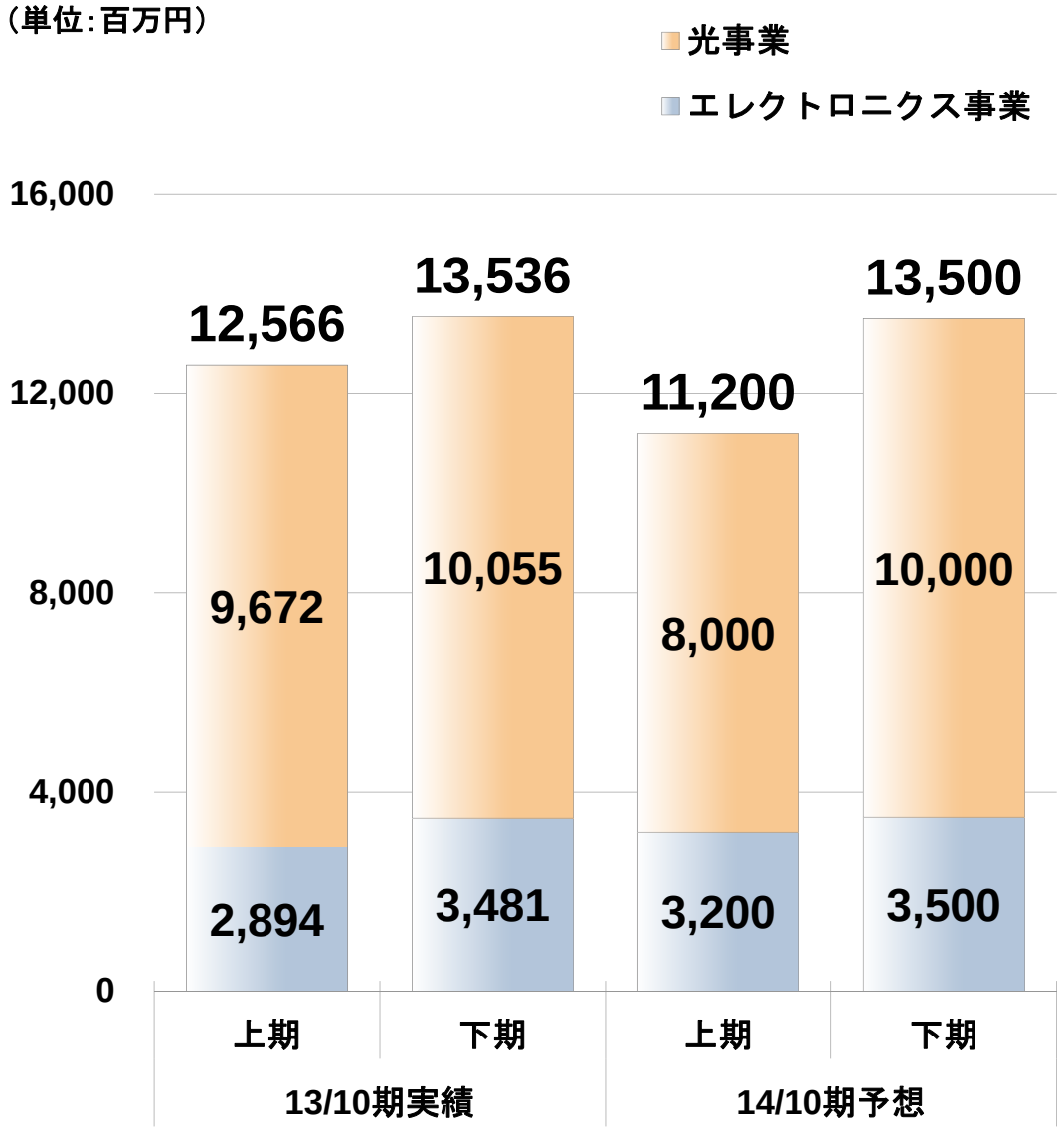


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

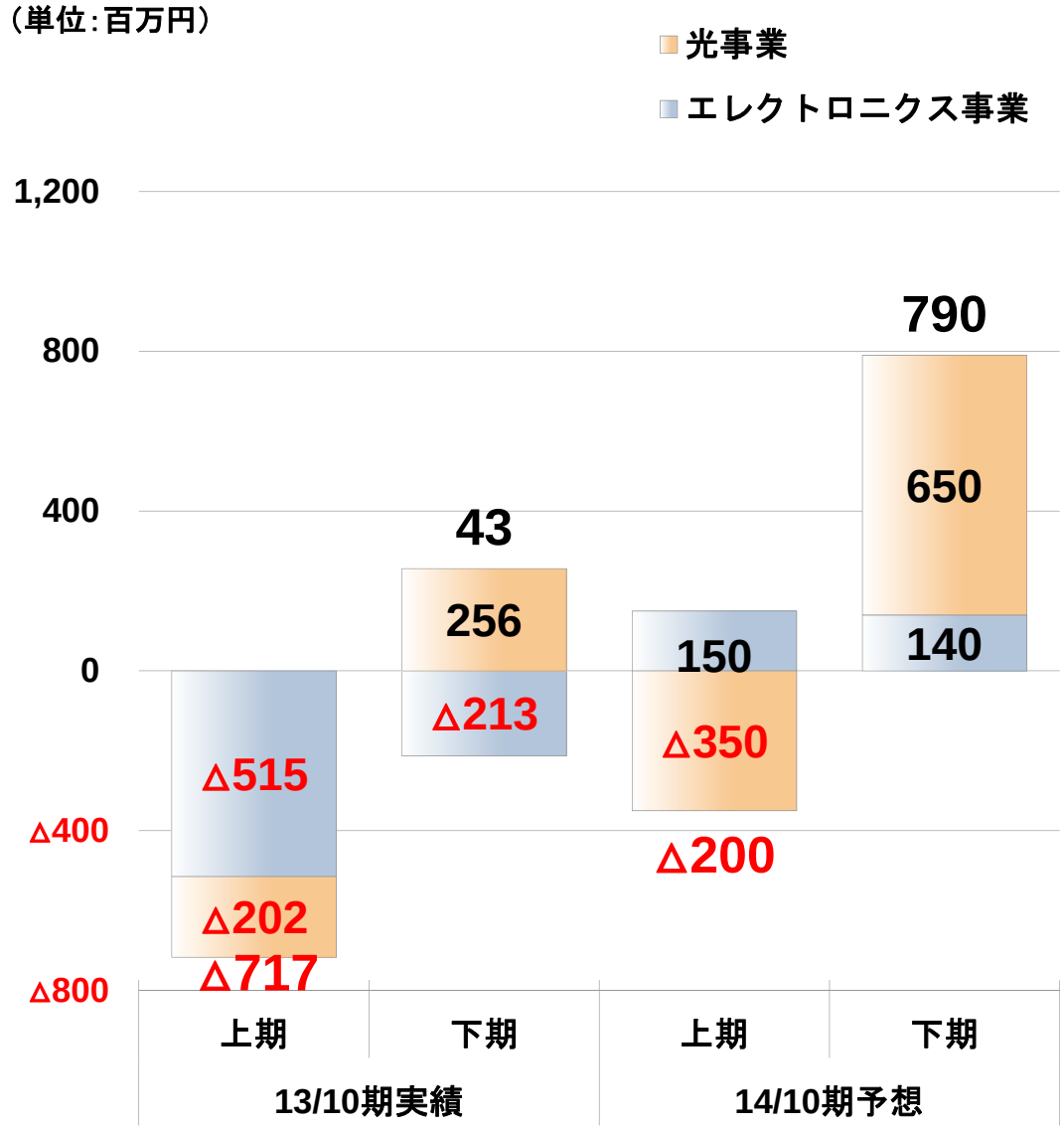
見通し数値まとめ

株式会社 オハラ

売上高



営業利益

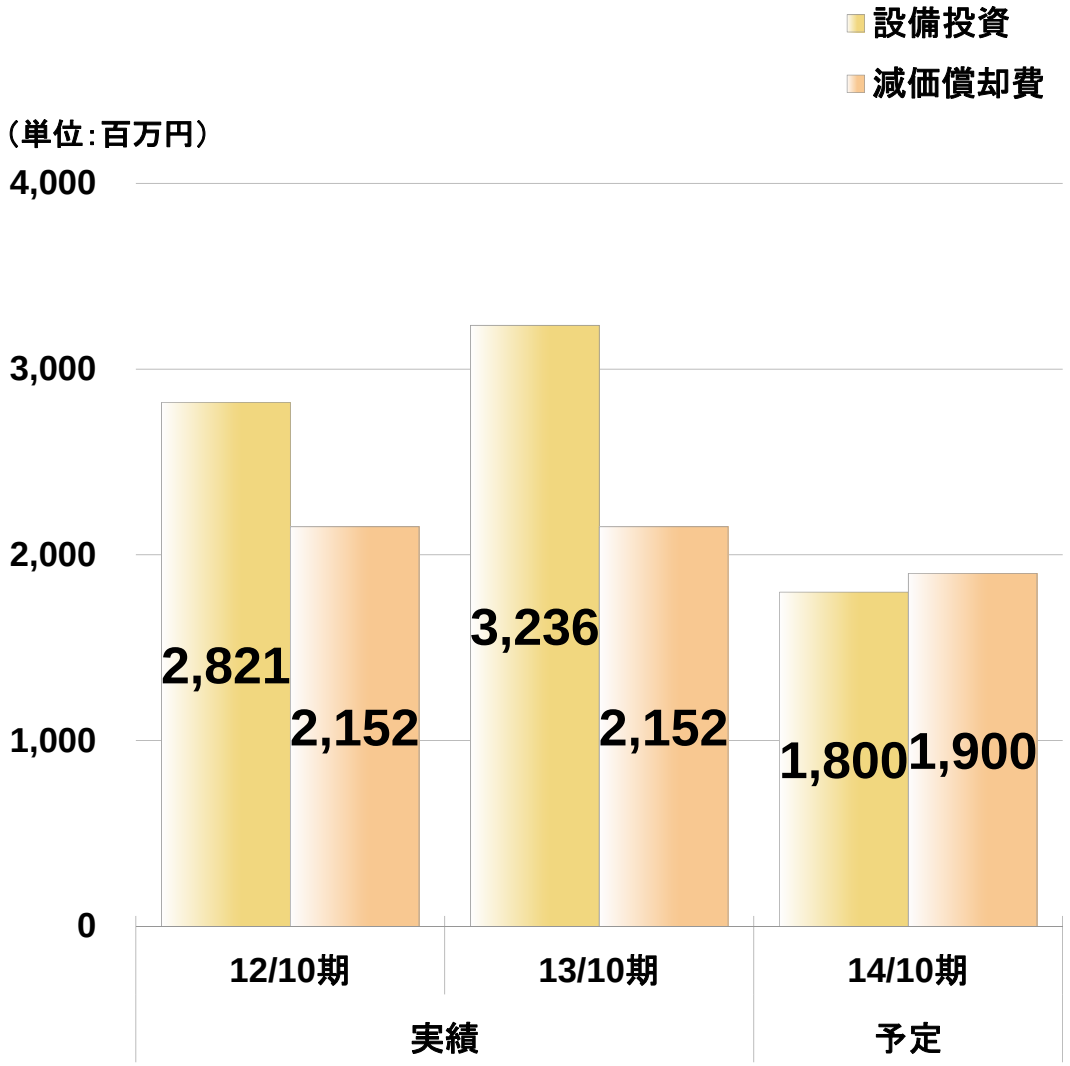


Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.

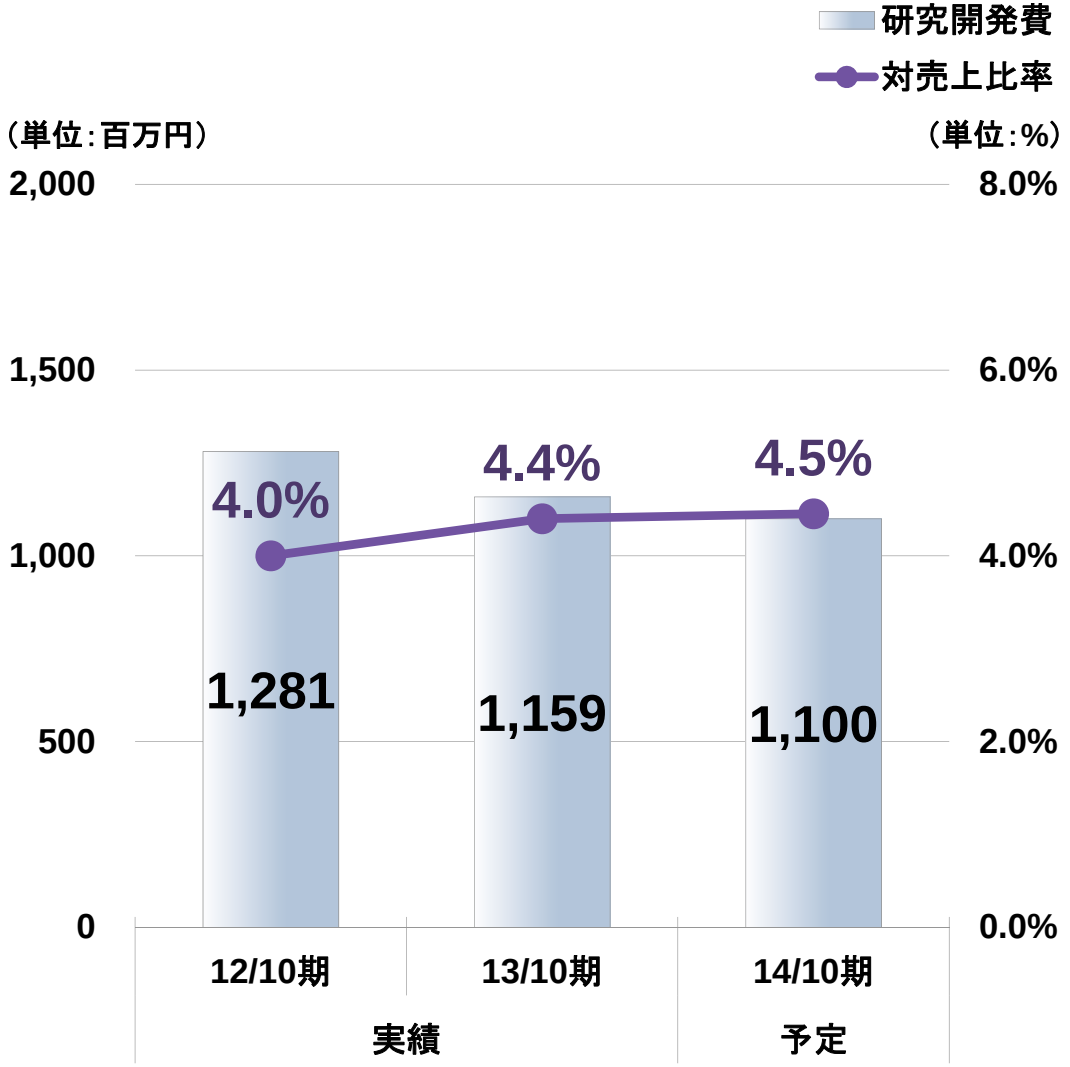
設備投資、減価償却費、研究開発費

株式会社 オハラ

設備投資、減価償却費



研究開発費



Copyright© 2013 OHARA INC. All Rights Reserved.


OHARA